

関係人口創出マッチング会議  
2024 報告書

森づくりを続けるために  
『太くて長い人間関係』を  
どうつくる

ONLINE 開催 & 会場参加  
2024.12.11 wed. 13:00-15:00

【対象】「関係人口創出・維持タイプ」の実施を予定、または実施したいと考えている組織、他の地域の方と一緒に活動したいと考えている組織の方など

【参加者】 55 名（活動組織関係者 21 名、発表組織関係者 4 名、その他 30 名）

【主催】 北海道、北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会

●先駆的な事業を展開している事例紹介

①学校との連携で生む関係人口

標津の森を守る会（標津町） 井南 進氏

「標津の森を守る会」は標津町の「ポー川史跡自然公園」で活動している団体です。活動するエリアは640ヘクタールで、そのうち220ヘクタールが湿地、420ヘクタールが山林ですが、倒木などで荒れて手入れがされていない暗い森でした。

当会は平成27年に設立し、交付金の「地域環境保全タイプ」や「森林機能強化タイプ」を受けて活動してきました。令和3年からは「森林資源利用タイプ」、「関係人口創出・維持タイプ」の活動がメインとなっています。

活動としては、林床のササ刈りやアカエゾマツ林の枝払い、間伐など。アカエゾマツ林は暗くて林床の植生が全くないので、光を入れて植生の回復を目指しています。

関係人口交流としては、長野県の生坂村の中学生や、神奈川県相模女子大などが訪れ、森林学習や体験を行なっています。ミズナラやオニグルミの苗を植える植樹や、森がなぜ大切なのかを学ぶプログラムを提供しています。また、地元の子どもたちには巣箱作りや丸太を切ってみる薪づくりなどを体験してもらっています。こうした交流事業が、地域内外の子どもたちに、サケ漁や酪農などの標津の産業や、豊かな森が豊かな海を育てることなどを知ってもらう機会となっています。一般の人も含めて関係人口を増やす取り組みをさらに進めていきたいと思っています。

課題としては、活動する人の高齢化、それに伴う安全管理です。活動する人数も少なくなっており、新しく参加してくれる人も探していますが、思うように増えていません。\*交付金への要望として、関係人口創出・維持タイプ申請時の参加者氏名の提出などの手続きを省略できないか、また、交流の際の旅費の一部を支給するなどできないものでしょうか。

※協議会からの回答

- ・名簿については、事前に調整済みで活動者が10名以上であれば、「所属と人数」でも可能。
- ・旅費については、関係人口の5万円内では旅費は出せないが、メインメニューで、森林整備のために参加した場合は、日当などの支出は可能。



井南 進氏（標津の森を守る会副会長）



標津の森を守る会の活動の様子

令和6年度 関係人口との交流状況



関係人口交流の活動の様子

相模女子大学 栄養教育学研究室（神奈川県）のみなさん

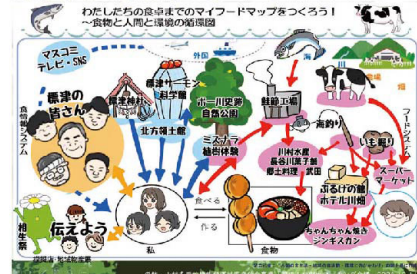
「標津の森を守る会」との交流は2009年に始まり、2018年には大学と標津町は包括協定を結び「森林環境整備支援活動研修」としてさらに学びを深めています。学んだことのひとつとして、標津での学びを表したフードマップを紹介します。フードマップは、自然の生態から生産者による生産や流通を経て、食事となり、そして私たちの食卓まで繋がっていく、といった食の循環を示す枠組みです。ミズナラの植樹体験や標津の森を守る会のみなさんとの森林学習から、自然の豊かさを知り、それがたくさんの人の繋がりの中で、私たちの食卓まで届くことを学びました。また、標津の特産の鮭節がミズナラのチップで燻されていることなど、森と食品の繋がりを学びました。自然と人、人と人がつながっていくことがこうした流れを支えているのだと学ぶことができました。

相模女子大学の学園祭などで標津の食材を使った料理を販売して、標津での学びを、食を通して伝える取り組みも始めました。学びを周りに伝えていくことは大切であると感じ、今後も標津の素直さを伝えていきたいです。



相模女子大学の間橋 杏氏と吉岡 有紀子教授

2. 参加して学んだこと～フードマップにのせて～



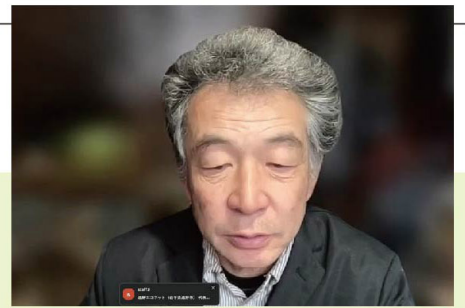
活動に参加して学んだ「フードマップ」

## ② 森林の多様な価値を引き出す

### NPO 法人遠野エコネット（遠野市） 千葉 和氏

私たちは森に建てた小屋を拠点とし、畑や川、国有林での活動を通して、子どもたちに人と自然のよりよい関係を伝える、自然体験型の教育をしております。

交付金を活用する活動としては、「地域環境保全タイプ（里山林保全）」では、水源の森づくりとして植樹活動などを行っています。「関係人口創出・維持タイプ」では、森づくりや安全講習、間伐体験などを行っています。「森林資源活用タイプ」では、保全活動の際に出る材を薪や木炭として活用する間伐材の資源化を行なっています。他にもマツクイ虫の被害による松枯れ対策で松炭を焼いたり、間伐材を使った木工やつる細工などで林産物を活用しています。地元の小学生の炭焼きや薪割りの体験会や「森の笠地蔵プロジェクト」では高齢者に無料で薪を配り、煙突掃除も行います。「森フェス」を開催して森でのさまざまな楽しみの機会を作って、森林への関心を高めてもらうとともに、地域内外からの交流の場としています。さらに健康や福祉と絡めて森林そのものをお金にする活動を目指して「morito」というブランドを立ち上げ、モニターツアーを行うなど、森林の多様な価値を見つけ、広げる活動をしています。



千葉 和氏（遠野エコネット代表）



拠点となる小屋と活動のフィールドのイラスト地図



「森フェス」の様子

## ③ 交流を広げて未来につなげる

### NPO 法人馬頭農村塾（那珂川町） 野崎 威三男氏

大学生の頃に参加した国際ワークキャンプが、私の人生を決定づけました。日本各地でワークキャンプに参加したのち、デンマークに渡航、その後はアジア学院の職員となり、インドネシア、ヨルダン、スリランカ、ブータンなど、50 数カ国を訪れ、活動しました。デンマークでは微生物農法を学び、それを機に有機農業に関心を持って、食といのちを大切に世界を目指す、アジア学院の職員となった流れです。その間、馬頭町から土地を借受け、学校林を開設し、ヒノキを植林するなどの活動も行いました。その後、土地の活用を考え、2010 年に「NPO 法人馬頭農村塾」を開塾しました。馬頭農村塾は生きる喜びと命をはぐくむ場、山村農地の活用と地域活性化を目標とした集まりです。当初、東京農業大学の海外移住研究部や日本大学の畜産経営学研究室などの関係団体以外は非公開でしたが、今では対外的に開かれて多くの団体と交流しています。2014 年から交付金を受けて、地域環境保全、資源利用、機能強化、関係人口の 4 タイプを活用しています。

里山事業は人材に恵まれ、機材を導入したことや農業部門があったことで成功しました。一方、課題としては作業者の高齢化があげられます。しかし農村塾に関わった若者が近くに移住してきたり、新たな団体と関わったりすることでその問題を解決できないか、期待しています。後継者の育成は急務です。

多面的交付金がなければ、資金を持たない我々のような団体はここまで活動できませんでした。この事業がもっと広く周知され、広がることを希望します。



野崎 威三男氏（馬頭農村塾代表）



馬頭農村塾の活動の様子



新たな団体との交流で始まる試み

# ● マッチングに向けた意見交換

## 井南 進氏 標津の森を守る会

ポー川流域の遺跡ではサケ科魚類の骨が出土しています。先史時代からサケを使っている「サケの聖地」なんです。交付金で森を整備することで地域の人や色々な人とつながること、こうした文化遺産の保護や活用にもつながっていくのではないかと思います。

## 相模女子大学

交流人口になれたことはとてもうれしく思っています。標津の森を守る会は次世代・未来のために活動していることは素晴らしいことだと思いました。自分も伝えていくために活動できればと思っています。

標津は自分の第二の故郷のように思っています。こうしたつながりがひろがっていけばいいなと思い、自身も広めていく一人になりたいと思います。

## 千葉 和氏 遠野エコネット

交付金はありがたいです。他の助成金も活用していますが、人件費として日当が出せる助成金というのは他にない。完全なボランティアだと活動を維持していけなくなってしまいます。おかげで活動の幅を広げることができています。

関係人口をどう広げるかですが、まずは近くで地域外の対象となる学校などに呼びかけてハードルを低くしてできるところから広げていくのがよいのではないかと思います。森に関心のない人にも樹木に触れる機会を与えられます。

## 野崎 威三男氏 馬頭農村塾

予算が取れるようになったというのは大変ありがたくて、活動の幅が広がりました。できれば交付金の回数を増やしてもらって、金額も増額してもらえたらもっとありがたいです。

たく長く続けるためには信頼関係しかない。関係する人や団体とよく話しながらやっていくということではないでしょうか。

## 大澤 英二 北海道地域協議会（事務局）

「関係人口」を通じて人々の交流が生まれることは非常に重要です。相模女子大学の皆さんがおっしゃった「標津が第二の故郷」という言葉には、とても深い意味があると感じます。このような思いを抱き、その気持ちを発信する人が増えることで、「関係人口」は広がり、深まり、そして長いつながりへと発展していくのではないのでしょうか。



# ● 総評



## 庄子 康 北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 会長

人のつながりというものの大切さを感じました。信頼関係がキーになっている。どの活動も教育関連とのつながりがあります。そういうところから考えると、学校とのつながりから発展を考えるのが重要なのかもしれません。また、今後の継続性、新規会員の獲得が課題になってくるのかと思います。馬頭農村塾では移住者が多いが、活動者というより他の形で地域に入っているようです。移住して活動を継続してもらったり、新しい人が今の活動をきっかけに新しい活動を見つけて地域でやってもらう環境作りが重要ではないかと思います。

また、それぞれの団体についてもう少し知りたいと思ったのは、事務局の機能や、情報発信をどうしているか、ということです。そうしたノウハウを共有できると、今後のたくて長い人間関係を作り、維持していくために役立つのではないかと思います。

## 森林・山村多面的機能発揮対策交付金制度 関係人口創出・維持タイプについて

### 森林・山村多面的機能発揮対策

- ◆地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取り組みを支援。

### 支援対象

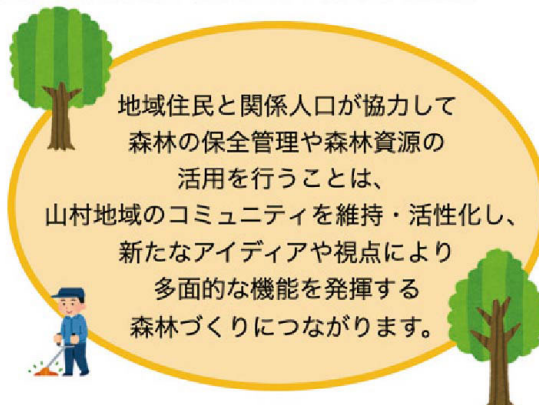
- ◆メインメニュー 地域環境保全タイプ、森林資源利用タイプ
- ◆サイドメニュー メインメニューとの組み合わせで実施できます。  
森林機能強化タイプ、資機材・施設の整備  
**関係人口創出・維持タイプ**

### 活動内容

- ◆地域外関係者との活動内容の調整
- ◆地域外関係者受入のための環境整備
- ◆これらの活動に必要な森林調査・見回りなど

### 採択要件

- ◆地域外関係者の参加を得て活動することが、地域環境保全タイプまたは森林資源利用タイプの活動を効果的に実施するために必要。
- ◆活動を実施する対象森林の所在する昭和25年2月1日における市町村の区域以外に居住する者。
- ◆地域外関係者の参加人数が10名以上。◆活動は年1回以上。
- ◆交付金の採択申請時に、地域外関係者との現地確認や活動内容の調整が完了し、相手方名なども決まっていること。



地域住民と関係人口が協力して森林の保全管理や森林資源の活用を行うことは、山村地域のコミュニティを維持・活性化し、新たなアイデアや視点により多面的な機能を発揮する森林づくりにつながります。

## 北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会

〒060-0004  
札幌市中央区北4条西5丁目1番地  
林業会館3階

TEL:011-261-9022  
FAX:011-261-9032

E-mail: morimidori@h-green.or.jp  
https://shinrin-sanson.h-green.or.jp/

